

小・中・高生と手作り体験

ものづくり教室を開催しました

8月31日、こじゅうろうキッズランドで「ものづくり教室」が開催され、来場した子どもたちが、キーホルダー作りや機関車の乗車体験を楽しみました。

この催しは、小・中・高校が連携し、交流を図りながら、集団の中で人のために役立つ喜びを体験しようとするもので、志教育支援事業の一環。この日は、ものづくりスタッフとして白石工業高等学校と福岡中学校、福岡・深谷小学校の生徒や児童52人が参加。工業化学部などの部活動に所属する高校生が、各コーナーで技術的な面を見守り、アシスタントの小中学生が、来場した子どもたちを案内したり、作品づくりや乗車体験のサポートをしたりしました。

アシスタントを担当した中学生は「普段、学校の中だけで接しているのとは違った人と関わることができて貴重な経験になりました」と話してくれました。



1_好きな飾りをつけて木製のキーホルダー作りを楽しむ子どもたち 2_絵を描いたプラスチック板に穴を開けてあげる中学生スタッフ 3_高校生がプラスチック板をオーブンで加熱し、オリジナルキーホルダーが完成！

貯筋でいつまでも元気に！

第2回いきいき百歳体操大交流会

9月6日、ホワイトキューブで「第2回白石市いきいき百歳体操大交流会」を開催しました。百歳体操は、手首や足首におもりを付け、ゆっくりとした動きで行う筋力体操で、本市では、高齢者の健康寿命を延ばそうと、平成28年度から積極的に取り入れています。本年度は、住民主体で体操を行う「通いの場」が、6団体増えて20団体になりました。地域の方が身近な場所に集まり、体操やお茶飲み話をする事で、居場所づくりや仲間づくりにも役立っています。

この日は、各地区で百歳体操を実践する団体や興味のある方など、60代から90代まで約230人が参加し、健康運動指導士などと一緒にレクリエーションや百歳体操を行いました。

参加した人は「コミュニケーションの場にもなっているので毎回楽しみに参加しています。寝たきりにならないようにこれからも続けていきたいです」と笑顔で話してくれました。



1・3_おもりを付けてゆっくりと足や腕を上げ下げする参加者。筋力に合わせておもりを増やしていくのが「いきいき百」の特徴です 2_列ごとに玉を受け渡して速さを競うレクリエーションも行われました

円卓で地域の将来を考える

きらり斎川笑アップ塾

8月31日、「きらり斎川笑^{しょう}アップ塾」が旧斎川小学校で開催され、地区内外から約50人が参加しました。斎川地区の住民が主体となって持続可能な地域づくりを目指すこの講座は、これまでに8回開催。昨年は独自に住民アンケートを行い、地域の課題を洗い出しました。

この日は「高齢者の買い物・通院の移動手段」をテーマに、市の担当者などから話題提供を受け、今の課題や今後不安なことをダンボール製の円卓を囲み話し合い、全体で共有しました。



▲身の回りのことや課題に感じることを共有しました

緑のカーテンに感謝

南保育園でゴーヤを収穫しました

8月23日、南保育園の園児たちが、育てたゴーヤを収穫しました。このゴーヤは、夏場の室温上昇を和らげようと今年5月に園児たちが植えたもの。園児たちは「緑のカーテン」に実ったゴーヤをていねいにハサミで1本ずつ収穫しました。収穫したゴーヤは、給食でカレーに入れたり、近所の方たちに配ったりしました。近所の人は「毎年来てくれてうれしいです。子どもたちの作ったゴーヤをおいしくいただきます」と話してくれました。



▲ハサミで収穫したゴーヤを手にする園児

相手の気持ちを考えよう

市内中学校で「SNS安全教室」

9月11日、インターネットでの人権侵害に関する知識を深め、いじめの発生を抑制しようと、福岡中学校で「SNS安全教室」を開催しました。この教室は本年度、本市が法務省から「人権啓発地方委託事業」の委託を受け、市内全中学校で行ったもの。講師に東北福祉大学の山下祐一郎^{やましたゆういちろう}氏を迎え、いじめや人権侵害などの講話を行い、生徒は「これから利用する時は、相手の気持ちになり考えながら使っていきたいです」と話していました。



▲講師の話を聞く福岡中学校3年生の皆さん